



十中だより

令和3年9月2日
文責 奈加晃典

めざす生徒像

- ☆自ら進んで学び、考えて行動できる生徒(確かな学力)
- ☆勤労と責任を重んじ、礼儀正しく協力できる生徒(豊かな人間性)
- ☆自他の生命を尊重し、心身を鍛える生徒(健やかな体)

校訓

自主 協働 剛健

コロナ禍について思うこと

第5波と言われている、新型コロナウイルスの感染拡大が、なかなか収まりをみせません。奈良県においても200人を超える感染者が出ており、県の緊急対処措置も9月12日まで延長になりました。

十津川村においてはワクチン接種もかなり進みましたが、デルタ株の感染力はただならぬものがあり、2回接種後も感染しないわけではなく、感染して重症化してしまう人も少なからず発生しています。ワクチン接種もあくまで個人の自由意志で行うものですので、100%の人が接種完了するわけでもありません。今後も、子どもたちが安全・安心と思い、登校できるよう、学校としてはできる限りの感染予防をしながら、学びの機会を保障できるよう努力していきたいと思えます。

ところで、現在の日本の感染状況は世界的に見るとどうなのでしょう。8月末の新聞によりますと、お盆の間の新規感染者数を人口100万人に換算すると、1116人だそうです。英国は3158人、米国は2979人、イスラエルは5261人と、日本の数倍も深刻です。死者数を同じように換算すると、英国は10人、米国は18人、イスラエルは17人、日本は1.4人です。死亡率の高い高齢者から接種を始め、お願いベースでの国の要請にも真摯に答えてきた日本ならではの数字と言えらると思えます。

しかしながら、緊急事態宣言があちこちの府県に出されているにも関わらず、ここにきて人流がなかなか抑えられていない要因は何なのでしょう。もちろん、「慣れ」が生じてしまっている部分や、オリンピック・パラリンピック開催が直接的な原因ではないにせよ、多少なりとも気持ちの部分で緩みが出てしまっていることであろうかと思えます。しかし、情報やお願いを発信する側(メディアを含め)の、人々への訴え方に疑問を感じるのは私だけでしょうか。どこかしら一人一人の心に響くような訴え方に欠けているように思えて仕方ないのです。

教員という仕事もそうですが、聞き手の心に届くような話をしないと、生徒指導は成功しません。ルールを守ってもらおうとしても、何故そのルールがあり何故守らなければならないかを、子どもと真摯に向き合い、気持ちに寄り添った指導をしないと、頭ごなしに注意だけをして一時

的には守ったとしても、必ずまた破ってしまうものです。聞き手の心にどれだけ届かせることができるのかが、最終的には大事になるのではないのでしょうか。

生徒の心に響かせる話をする時に、書かれた原稿を棒読みするような教師はいないはず。好きな異性に告白するのに、原稿を読む人もいないはず。正確を期するためとはいえ、聞き手のお腹にストンと落ちないような、用意された原稿の棒読みでは、相手の心はなかなか動かないように思うのです。医療に携わっている方々も本当にギリギリのところ踏ん張っている状況です。その彼らの頑張りを心からねぎらい、また感染拡大の抑制は今が正念場だということを心から訴えるような、無責任な発信ではない気持ちのこもった言葉が大事だと思います。私たちも、上手に話すことよりも相手の心に響くような話しっぷりを心がけたいものです。

学校教育活動に関するガイドラインについて



奈良県の緊急対処措置の9月12日までの延長に伴い、8月25日に新たなガイドラインが県より出ています。デルタ株への置き換えが大変な早さで進んでいる今、ワクチン接種が進んでいるとはいえ100%ではない以上、今まで同様、感染対策はしっかりとおこなって行かなくてはなりません。万が一生徒や教職員に感染者が出た場合は、3日間の臨時休業になったり、感染拡大状況によっては長期にわたる休業もあり得ますが、オンラインの授業等も視野に入れ、学習の保証ができるようにしていきたいと思えます。また、修学旅行は延期とさせていただきましたが、今後も学校行事の縮小や中止等も考えられます。急な変更になることもあり得ますので、ご了承下さい。また、9月12日までは、部活動の対外試合、練習試合、合同練習等は禁止となりました。

8月29日に予定していただいていたP.T.A奉仕作業も中止となり、予定を空けていただいていた保護者の皆様におかれましては、本当に申し訳ありませんでした。今後もまだまだ見通しが立たない状況が続きますが、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

